

主 題：感謝はみことばに立つこと

聖書箇所：Iコリント人への手紙1章10-12節

Iコリント1:10をごらんください。「さて、兄弟たち。私は、私たちの主イエス・キリストの御名によって、あなたがたにお願いします。どうか、みなが一一致して、仲間割れすることなく、同じ心、同じ判断を完全に保ってください。」、このコリントの教会はたくさん問題を抱えていました。霊的な教会と言うよりも、どちらかと言うと世的な教会、見習うべきでない教会でした。しかし、パウロは彼らのことを愛しています。ですから10節にあったように「兄弟たち」と呼んで、問題を抱えていたコリントの教会に対して、パウロはあることをしようとします。

今から二つのことを見て行くのですが、パウロはこれまで我々クリスチャンが神様からいただいたすばらしい祝福を述べてきました。問題はその神様がクリスチャンである私たちに、あなたに与えてくださった祝福に対してどのようにあなたがお答えになるかです。パウロはピリピ人の手紙の中で、正しい応答を示してくれました。「私にとっては、生きることはキリスト、死ぬこともまた益です。」(ピリピ1:21)と、私にとっていのちそのものが主であり、私はすべてのことを主のためになす。これが私の目的だし、これが私の目標なのだ。主に喜んでいただきたい。そして私たちに主の恵みをいただき、それを感謝している者がどう生きて行くのかを教えてくださいました。

実はこの後のところで、パウロは神様が与えてくださった祝福に対してふさわしくない応答、間違っただけの応答を示しています。パウロはそれをするによって、愛するコリントの教会たちが変わってくれることを望んだのです。多くの問題を抱え、大変な罪の中を歩んでいたこの教会にパウロが望んだこと二つを我々は見ることができます。一つはパウロは彼らの罪を矯正しようとします。そして彼らが正しく歩んで行くように彼らを回復しようとするわけです。今そのことを10節のところから見て行きましょう。

A. 罪の矯正 10節

まず最初に、「さて、兄弟たち。私は、私たちの主イエス・キリストの御名によって、あなたがたにお願いします。」とあります。注目したいのは、「お願いします」という動詞です。「お願いします」と言うと、パウロが彼らに何かを願っている、非常に弱いメッセージに取れるのですけれども、口語訳聖書は「勧める」と訳しています。どちらかというともう少し強いです。皆さんに今から見ていただきたいのは、ここで使っていることばがどういう意味を持ったことばかです。なぜならそれを知ることによって、パウロがここで言いたかったメッセージをより正確につかむことができるからです。実はここで使われている「お願いします」と訳されたこのギリシャ語は「傍らに」ということばと「呼ぶ」ということばの二つが組み合わさってできたことばです。そこでこのギリシャ語を辞書で引くならば、こういう傍らに招くとか、そばに呼ぶとか、懇願する、嘆願するという訳が出て来ます。

実はこれは、今動詞だと言いましたが、このことばには名詞形があります。これはヨハネ14や15、16章に出て来ることばで、新約聖書の中には5回しか出て来ないのですが、5回中4回は助け主と訳されています。「わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。」、ヨハネ14:16です。この「助け主」はだれかについても、ヨハネ14:26で主イエスがお話になっています。「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は」と書いています。聖霊のことを「助け主」と主ご自身が呼んでおられた。実はここで「お願いします」と訳されていることばの名詞形は「助け主」と訳されたことばなのです。なぜそんな説明をするかというと、パウロはただお願いしたのではないのです、ただ勧めたのではないのです。そこにはもっと意味があったのです。

「助け主」と訳されている名詞形は、ヨハネ14:16、26に、またヨハネ15:26や16:7に出て来ます。ここまでは全部「助け主」と書いてあるのですが、Iヨハネ2:1には「助け主」ではなくて「弁護する方」と書いてあります。どちらも同じ働きをするのです。「助け主」、つまり聖霊なる神様がなぜクリスチャンであるあなたに与えられたかという、その聖霊なる神様の助けによってあなたが神様のみことばに従って行くためにです。もっと別の言い方をすれば、あなたがクリスチャンとして勝利ある生活を送るために、聖霊なる神様があなたのうちに与えられたのです。ですからクリスチャンの皆さんはあなたのうちに聖霊なる神様が内住されていることをご存じです。あなたの心の中に聖霊なる神様が内住されていることを日々の生活を通して確信されていると思います。なぜなら神の前に間違っただけのことをするとそれは神の前に罪だと教えてくれるし、神の前に罪を犯していると、あなたは神を悲しませると言って、聖霊はそのことを示してくれるし、これまでとは違うことが私たちの心の中に起こっているわけです。ですから聖霊はあなたのうちに住んでくださり、そしてあなたが神に喜ばれる生き方をして、神の栄光を現わすために助けを与え続けてくれます。そのために聖霊が与えられた。ですから「助け主」なのです。

Iヨハネ2:1では、イエス様があなたのことを弁護してくれるとある。だってサタンはいつも神の前であなたを訴えているからです。こんなひどい罪を犯している人が本当にクリスチャンなのかと。その時イエス様ご自身があなたのために弁護してくださっている。そうです、私は彼のこの罪のために、彼女のあの罪のために十字架で

身代わりになって死んだのですと、彼が弁護してくださると。だから聖霊もイエス・キリストもあなたを助けてくれているのです。そのことばをパウロはここで用いたのです。なぜこんなことばを用いたかという、パウロはコリント教会の実情というものを知らされるのです。それがこの11節のみことばに出て来ます。「**実はあなたがたのことをクロエの家の者から知らされました。**」と。「**クロエ**」がだれなのか、どういう人だったのかよくわからないのです。というのは、この箇所以外にこの人の名前は出て来ないのです。でもこういうことはわかります。パウロはクロエの家の者からあなたたちの現状、あなたたちの問題を知らされたと言っているわけですから、かなりパウロ自身が信頼を置いていた人物です。信頼を置いていない人物からのメッセージというのはあまり信じませんでしょうか？この人が言うことは信頼できると思う人だったら信じます。ですからパウロは、コリント教会の実情というものをクロエの家の者から知ったと言っています。

この「**知らされました**」と記されていることばは明らかにされたとか、ある神学者は詳しい説明という意味だと説明しています。ですから、パウロはクロエの家の者から詳しくコリント教会の実情を知らされたのです。コリント教会がどういう教会なのかが明らかにされたと言うのです。実はこれは告げ口というのとは違うのです。私たちも悲しいことにだれかの過ちを見た時に、告げ口をすることをしたり、聞いたりします。ひょっとしたら我々やったことがあるかもしれない。でも告げ口をする時には残念ながら大なり小なり、サイズの違いがあったとしても我々の心の中に悪意があります。その人をみんなが悪く思っしてほしいとか、悪く見てほしいという時に人の悪いことを人々に告げ口するのです。これはゴシップ、罪です。しかし、そういうことをクロエの家の人たちがしなかったというのは、それを聞いたパウロがどのようにそれを受け止めているか。またパウロのメッセージを聞く時にパウロは彼らをさばこうとはしていません。彼らを正しく扱おうとしています。その背後には常に愛があります。ですからクロエの家の人たちがコリント教会の実情をパウロに伝えた時に、彼らも愛をもってこの教会の現状を伝えた。それを聞いたパウロも愛をもって彼らに答えようとするわけです。

コリント教会にどんな問題があったのか、11節を続けて見てください。「**兄弟たち。あなたがたの間には争いがあるようで、**」とあります。争いが存在していたのです。クリスチャン同士が互いの口論や争いに時間を取っていたのです。この教会はこんな悲しい状態にあったのです。パウロはこのコリント教会の問題を知って、彼らを助けようとするのです。だから「**お願いします**」というところに助けるという意味を持ったことばを使ったのは、パウロはその現実を知ってだれが悪いのだと彼らを責めて、彼らをさばこうとしたのではない。パウロは「**お願いします**」と言った時に、罪の中を歩んでいるこの教会の人々を何とかお助けして、彼らが正しい方向に進むことを願っていたのです。だからそういうことばをパウロはここで用いるのです。

SEE10節 「私たちの主イエス・キリストの御名によって」

どんなふうにして彼がその働きをしようとしたかという、まず彼らの間違いを明らかにしています。そしてその上でこの教会が主の前に悔い改めることをパウロは命じるわけです。12節には彼らの問題が記されています。実はこのことについて3章の終わりまでパウロは記しています。そして彼らを正そうとしています。それを見て取れるのが10節の「**さて、兄弟たち。私は、私たちの主イエス・キリストの御名によって、**」ということばです。なぜパウロはこういう書き方をしたのかです。なぜパウロは私はあなた方へお願いしますと言わなかったのか。なぜ「**私たちの主イエス・キリストの御名によって、**」と言ったのか——。二つのことが言えると思います。つまりこうすることによって、コリントの教会の人々にあなたたちは主のみこころに反していますよということを明らかにし、もう一つは実はあなたたちのやっていること、選んでいることは救いの目的に反することだということを教えようとするのです。

① 主のみこころに反する

パウロは「**私たちの主イエス・キリストの御名によって**」と言いました。そのことによってコリントの教会がやっていることが主のみこころに反するというを明らかにするわけです。なぜかという、「**主イエス・キリストの御名**」と言った時に何を指しているのかを考えるべきなのです。皆さんもよくご存じのように、これは主ご自身を指しているのです。主ご自身のご人格であったり、品性であったり、みこころであったり。「**主イエス・キリストの御名**」によって祈ると私たちはよく言います。多くの人々は、そういうフレーズを入れなければ、そういう文言を入れなければ、その祈りは聞かれないと勘違いしておられるかもしれない。だから何を祈っても最後に「**主イエス・キリストの御名**」によって祈ります、アーメン。これでこの祈りはやっとイエス様のもとに届くと。残念ながら聖書の言っていることはそういうことではないのです。「**主イエス・キリストの御名**」によって祈ると言った場合、私は主イエス・キリスト、神様あなたのみこころを求めます、そして私はあなたのみこころに従いますということなのです。我々信仰者、救いに与ったクリスチャンのお祈りというのは、自分の欲しいものを手に入れるための手段ではありません。もちろん私たちは自分が抱えるいろいろなことを神の前に持って行くことが許されています。愛する人の病気であるとか、仕事であるとか、さまざまなことを我々は神の前に持って行くことができます。ではなぜ「**主イエス・キリストの御名**」によって祈るかという、そのような個人的なことを主の前に持って行くことができるのですけれども、我々が求めていることは「**主よ、私の願いがかないますように**」ではなくて、「**主よ、私はあなたのみこころが何であるかを知りません。つまり何が最善であるかをわからないので、それを教えてください、それに私は従いますから。**」、それがその意味なのです。皆さん、そうやって祈っておられるはず。この病が治ってほしいと祈ること

は間違っていないのです。病が治ることがみこころならば治るのです。そうでなければそのままになるのです。それを主がお決めになるのです。何が最善かをご存じなのはこの方だけなのです。だから私たちはこの主のなさることに従って行こうとするのです。それを「主イエス・キリストの御名」によって祈りますと表現するのです。

パウロがここで「私は、私たちの主イエス・キリストの御名によって、あなたがたにお願いします。」と言ったのは、いいですか、コリントの教会の愛する兄弟たちよ、あなたたちのやっていることは主のみこころに反することだと。救いに与ったあなたたちが救われた者の生き方というのは、この方のみこころに従って生きて行くことです。あなたたちのやっていることはそうではないです。あなたたちの間にいろいろな問題が生じている、あなたたちの歩みが罪の中を歩んでいる、それは主のみこころに反しているとパウロはまず最初に言うわけです。

② 救いの目的に反する

二つ目に、こういった争いがあるという現実には救いの目的に反する生き方です。私たちは主の恵みによってこの救いに与りました。9節にあったように主イエス・キリストとの交わりの中に私たちは入れられたのです。神の家族とされたのです。そこには、人種や肌の色は関係ない。社会的地位も家系も教育や財産の有無を超えた関係がそこに存在しているわけです。キリストにあって我々は一つにされたのです。キリストにあって私たちは兄弟姉妹とされたわけです。主はそのために私たちを救ってくださったのです。我々は一つにされたのです。私たちは主が喜ばれることを喜んで選択し、そして主の栄光のために生きて行こうと。そこでパウロは言うのです。その目的のために救われたのにあなたたちのやっていることは、栄光を現わすことではなくて、栄光を汚すことです。ですから、まずパウロは、このコリントの教会の兄弟たちに対してあなたたちは間違っているのだということを明らかにします。そしてこの後、このことを詳しく説明して行きます。

パウロはなぜこういうことをしたのか——。なぜ教会の隠しておきたい恥部を、その罪の本質の部分の部分を明らかにしたのか、そこをさらけ出したのか。パウロ自身がそれについて答えています。I コリント4:14「私がこう書くのは、あなたがたをはずかしめるためではなく、愛する私の子どもとして、さとすためです。」とあります。パウロはこう教えるのです。クリスチャンが罪を犯した場合、この場合はコリントの教会のことですけれども、彼らが罪を犯したら、彼ら愛する者はその罪を明らかにして、その罪から彼らが悔い改めるように彼らに勧めるのです。それが愛だと言うのです。我々日本人にはなかなか難しいことです。でもそれが聖書の教える本当の愛の実践です。私たちの教会の中でも兄弟姉妹が罪を犯していることを知ったら、我々がしなければいけないことはあなたは罪を犯しているということ、彼ら愛するがゆえに伝えるのです。そしてその罪を悔い改めなさいと。悔い改めなければ教会から追放しなさいと。未信者のように扱いなさいと教えています。なぜか——。聖書はさばきを言っているのではないのです。彼ら愛するゆえにそうしなさい。そして彼らが交わりから絶たれることによって、いろいろなことを感じます。その中の一つが寂しさでしょう。そしてそういったことを通して、彼らが悔い改めて帰って来るように。パウロはこうしてコリントの教会の抱えている罪を明らかにし、彼らその罪から悔い改めて立ち返ることを望んだのです。この戒規という行為はまさに愛の行為であることをパウロはここでも教えてくれます。パウロは彼らのことを「兄弟」と呼びました。愛する者たちであるがゆえに、みことばから外れてる生き方、みこころに反する生き方には何の祝福もないことを知っていたゆえに、パウロは立ち返りなさいと勧めたのです。そしてパウロはそのために私は喜んで助けをなそうと、まずそのことを10節の初めで教えるのです。

B. 正しさへの回復 10節

その後今度は、彼らが正しさに回復されて行くように、正しい歩みをなして行くように、10節の後半のところはそのことを教えています。

1. 分裂しない

まず最初に彼が言うことは、分裂しないようにということです。「どうか、みな一致して、仲間割れすることなく、」とあります。「仲間割れ」というのは、分裂であったり対立という意味です。ですからパウロがここで言わんとしたことは、あなたたちコリントの教会にあって、兄弟姉妹たちが分裂をしないように、対立をしないようにと言ったのです。

① 分裂の問題 12節

なぜこの分裂が起こったのでしょうか。彼は12節のところ分裂の問題について記しています。「あなたがたはめいめいに、『私はパウロにつく。』『私はアポロに。』『私はケパに。』」、つまりペテロですけれども、『私はキリストにつく。』と言っているということです。と。自分たち個人個人の好きな人を選んで、私は何派だと言い張っていたのです。私はパウロが大好きなのでパウロ派です、私はパウロよりペテロが好きだからペテロ派ですと。私はイエス様が好きだからイエス様派ですと、こういうことが起こっていたのです。だから教会の中に分裂が存在したのです。その現状をパウロは言っています。そして我々今考えたいことというのは、なぜこういうことが起こるのかです。だってこれはコリント教会だけの問題ではありません。残念ながら人が集まる時には必ずそこにいろいろな問題が出て来るのです。町内会でもそうだし、PTAでもそうです。悲しいことにイエス・キリストの恵みによって救われたクリスチャンたちが集まっている教会の中においても同じなのです。

② 分裂の原因

なぜそういう分裂が起こるのか。二つの原因を見ることができます。

(1) 信仰における未熟さ

一つは信仰における未熟さです。I コリント3:1-3でパウロはこんなふうに記しています。「:1 さて、兄弟たちよ。私は、あなたがたに向かって、御霊に属する人に対するように話すことができないで、肉に属する人、キリストにある幼子に対するように話しました。:2 私はあなたがたには乳を与えて、堅い食物を与えませんでした。あなたがたには、まだ無理だったからです。実は、今でもまだ無理なのです。:3 あなたがたは、まだ肉に属しているからです。あなたがたの間にねたみや争いがあることからすれば、あなたがたは肉に属しているではありませんか。そして、ただの人のように歩んでいるではありませんか。」と。パウロが教えたことは、悲しいことにコリントのクリスチャンたちは信仰的に非常に未熟だったのです。彼らは世の中の人のように生きていたのです。神様のことを知らなかったのではない。知っ
ていながら、彼らの歩みはそのような間違った生き方でした。国が違えども私たちと同じような弱さを持っています。みことばをどれほど聞いていてもいつまでたっても信仰が成長していない。ヘブル書の著者はそのことについてこんなふうに教えます。ヘブル5:12「あなたがたは年数からすれば教師になっていなければならないにもかかわらず、神のことばの初歩をもう一度だれかに教えてもらう必要があるのです。」、年数から言ったらあなたたちはみことばを聞き続けてきたのだから、本来なら人々にみことばを教えることができるような人でなければいけないのに、あなたたちはそれがまだできない、まだ初歩、赤ちゃんですと、厳しいことを言っています。「あなたがたは堅い食物ではなく、乳を必要とするようになっています。」、また同じヘブル5:14で「しかし、堅い食物はおとなの物であって、経験によって良い物と悪い物とを見分ける感覚を訓練された人たちの物です。」と。まとめると、パウロがこのコリントの兄弟たちに対して、あなたたちは肉に属していると言いました。あなたたちの信仰は幼稚だと言いました。それはどういう意味かということ、彼らは聖書に立って物事を判断することができないのです。彼らの判断の基準というのは、自分の考えであったり、この世の考えであったり、この世の常識です。霊的な人々は聖書が何と言っているかを考えて、それで判断するのです。ですからパウロはコリントの教会の人々というのはまさに聖書に基づいて判断することのできない信仰的に非常に幼い者たちだと言うのです。

その原因は、みことばをただ聞いているだけだからです。みことばはどれだけ聞いても、何年聞いても、みことばに従わないで聞いているだけでは成長しないのです。私たちが信仰者として生きていく時に、聖書の教えを見て、「えっ？」と思うことがあるかもしれない。神様はこんなことを望んでおられるのかと思うことがあるかもしれない。そういう時に、神様の言われていることは少しおかしいからこういう常識や私の経験に基づいて歩いて行った方がいいのではないかと。我々クリスチャンというのは、自分が納得するかどうかはどうでもいいのです。私たちに
とって大切なことは、神様が何と言われているかを正確に学んで、それに従うかどうかなのです。だから私たちは奴隷なのです。クリスチャンである皆さんは神の奴隷です。そうでない皆さんはサタン
の奴隷です。どちらにしても奴隷なのです。主人の言うことをやっているのです。我々、恵みによって救われた者たちは、神が言われたとおりに従って行こうとするのです。説明など必要ないのです。神様が言われたことに従って行く、それが私たちクリスチャンなのです。ですからパウロはクリスチャンの集まりの中にいろいろな争いが起こるのはみんな信仰的に幼稚だからと一つ目の理由を述べています。

(2) 罪

二つ目の理由は明白です。罪が問題です。ヤコブ4:1-2で「:1 何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いがあるのでしょうか。あなたがたのからだの中で戦う欲望が原因ではありませんか。:2 あなたがたは、ほしがっても自分のものにならないと、人殺しをするのです。うらやんでも手に入れることができないと、争ったり、戦ったりするのです。あなたがたのものにならないのは、あなたがたが願わないからです。」と。つまりヤコブは人々がどうして争うのか、その理由を教えています。それは、我々の自己中心的な考え方や生き方です。いつも自己中なのです。利己的なのです。私の考えるように生きて行きたい。私の願いどおりにすべてのことが進んでもらいたい。だからそのとおりにならないと私たちは腹を立てます。自分が望んでいるような扱いを人々から受けなければ、怒りを覚えるのです。自分のことだけを見ているからです。パウロは、このコリント教会の現状を見た時にこの問題がどこから来ているのかをよく知っていました。彼らの信仰的な弱さ、幼さ、またその罪がこういった結果をもたらしていたわけです。悲しい現実というのは、主は、主のすばらしさを世に証するため私たちに救われたにもかかわらず、私たちがそれをしていない。特にコリントの教会はそれをしていなかった。

Think !

私たちクリスチャンというのはキリストの香りを放つ者です。聖書がそう教えています。II コリント2:15に「私たちは、救われる人々の中でも、滅びる人々の中でも、神の前にかぐわしいキリストのかおりなのです。」と書いています。香水をつけておられる皆さんはだれかの前を通ったら、その香りが立つでしょう。ある人はそれに気づいて、その銘柄を言うことができるかもしれない。なぜならその香りを身につけておられるからです。パウロが言うのは、私たちはキリストの香りを放つと言うのです。私たちの周りの人々はあなたがその横を通るなら、あなたを見かける時に、そこに立ち上っているキリストの香りをかぐと言うのです。つまり言い方を変えたら、あなたを見る時に、あなたと話をする時に、あなたと何かをする時にイエス・キリストとはどういうお方なのかをあなたを通して知ることになると言うのです。それがクリスチャンだとパウロは私たちに教えているのです。

でも、悲しいことにコリント教会はそのような働きをなしていなかった。この働きは罪によって台無しにされます。よく海外からお客さんが来ると、私は必ずデパートの鮮魚売り場に連れて行くのです。どういうわけか彼らは魚は臭いものだとみんな思っているのです。確かに臭くなります。でも少なくとも日本のデパートの鮮魚売り場に行くと、そういう臭いはしません。みんな臭くないと驚くのです。でも我々が知っているように、魚をそのまま放っておくと、臭くなっていきます。魚の中にいる細菌の持つ酵素によってトリメチルアミンという物質が生成されて、それが臭いの原因だと言われています。この説明を聞かなくても我々はそのことを体験しています。

私たちのうちに罪があるならば、キリストの香りどころか私たちのうちから異臭が悪臭が漂って来るということになり得るのです。だから私たちはどんなふう生きて行くのかを考えながら、主の前に正しく歩んで行こうとすることです。主のみことばに従って生きて行こうとすることです。なぜならあなたの信仰が成長する時に、間違いなくあなたはキリストの香りを放つからです。あなた方がクリスチャンであれば、最初はすばらしい香りを放っているでしょう。なぜかという、皆さんが救われたことを喜び、感謝しているからです。しかし、次第にその喜びがなくなり、感謝が薄れていく。そしてその生き方が妥協した生き方になって来ると、悲しいことに私たちはすばらしいキリストの香りではなくて、それ以外の香りを放つ者として地上を生きていることになります。

コリントの教会は神様の恵みによって救われていながら、彼らの中には争いが存在したのです。信仰的に弱かったから、彼らは神のことよりも自分のことを考えるのです。彼らの罪がそのような生き方を奨励し、そのような生き方を彼らが歩んで行くように助長するわけです。彼らが気づかなければいけなかったこと、そしてパウロが彼らに気づかせようとしたことは、神の前に過った生き方をすることは、大変問題ある結果を生み出すのだということです。今見て来たように、キリストの香りを放つことなく、間違ったキリストの香りを放っているとしたら大変です。神はあなたを通して、キリストはどんなに愛にあふれた方であるかというのを明らかにしようとするのに、人々があなたを見て、イエス様ってこんな方なの？と思うとしたら、我々は神によって赦された者として許し合い、それによってキリストのすばらしさを証して行くのに、我々が人を許さないとか、人を憎んでいるとか、人の悪口を言っていたら、我々はどんなキリストを証しています？悪口を言い、赦さない、そのようなキリストを我々は証するのです。だからパウロは私たち自身が神の前に正しく歩んで行くことが必要だと言うのです。そして私たちの信仰がキリストの恵みによって成長するならば、我々はキリストのすばらしい香りをより強く、この世の中に放って行くことになる。

ジョン・マッカーサー先生はこんなことを言っています。「我々が罪を犯したり、不平不満を言ったり、口論したりする時、我々は教会に、教会のリーダーたちに、そして他の兄弟たちに害を及ぼしていると言うのである。我々はまた未信者と福音の間に障害物を置くことになる。しかし、最悪なのは、我々が主に恥辱をもたらすことである」と。私たちが、主のみことばに従って生きていないならば、主のみこころに反して生きているならば、大変な問題をもたらします。教会の中にいろいろな問題をもたらす。なぜなら、そういう教会はキリストの栄光が現わされていないからです。そして未信者がそのようなクリスチャンの集まりを見た時に、私たちが主と仰ぐ主に対して関心を払うことはありません。こんな主であるならば、こんな神であるならば、私は必要としませんと。そして最悪なのは、主ご自身を辱めることになると。なぜならこのような罪の生き方をするために、主ご自身がご自分のいのちを捨てられたのではないからです。キリストの栄光を現わし、キリストのすばらしさを現わし、そしてキリストの香りを放つために神はあなたのためにいのちを捨ててくださった。だから我々クリスチャンというのは、神の前に正しい選択をして正しい歩みを継続して行くことが必要なのです。

2. 一致を保つ

パウロはまず最初に私たちに分裂をしてはならないのだということを言います。そしてその後で一致を保つことをパウロは教えています。10節の中に「同じ心、同じ判断を」と記しています。これは考え方か思いです。同じ考え方、同じ思い、同じ判断を保つようにと。実はこのことは可能なのです。なぜ可能かという、私たちはクリスチャンだからです。そして私たちは聖書を愛しているからです。

① その確実性

(1) 主が心を変え、心を支配して下さる——「同じ心」

なぜそれが可能なのか。その確実性について考えるならば、まずパウロは「同じ心」と言いました。我々は同じ心を持っているのではないですか。私たちが主の救いに与った時に私たちの心は変えられました。これまでは自分のために生きていた私たちがイエス様の救いに与った後、主のために生きよう、隣人のために生きて行こうという思いを持つ者にならなかったのではないですか。それはそういう人にならなければ救われないのではない。神が救ってくださったなら私たちの心をそんなふうに変えて下さる。ですから、かつて持っていなかった新しい思いを、願いを持って生きる者に我々はなったのです。「同じ心」を持つ者として私たちは互いに励まし合いながら、主が喜ばれることを行なって行きましょうと、そのように生きる者へと私たちは生まれ変わったのです。主のみことばに従い、聖霊の助けをいただきながら従い、罪を犯せばそれを神の前に悔い改めて正しく歩んで行こうとする。そうやって我々は生き続けるのです。そういう「同じ心」を私たちは共有しているから一つになれると言うのです。

(2) みことばに立つなら、同じ判断ができる——「同じ判断」

もう一つ、彼は「同じ判断」をすることができると言うのです。我々は聖書を信じているからです。同じ土台に立っているのです。私たちは聖書が神のおことばであると信じています。私たちは聖書が言うことを信じようとしています。この聖書はまさに我々クリスチャンが生きて行くための人生の指針です。どのように歩むことが主の前に正しいのか、一体何が主のみこころなのかを聖書は我々に明らかに示してくれる。その同じ土台に立っているのです。ですから私たちは一つの同じ思いを持って、同じ心を持って、同じ判断を持って歩んで行くことができる者に生まれ変わったのです。

皆さんに少し考えていただきたいのは、聖書を見た時に、確かに教会に霊的リーダーたちを任命するようにと教えています。聖書の中には、順番にリーダーが変わって行ったらいいとか、人気のある者をリーダーにしようとして書いていません。霊的なリーダーを任命するようにと。教会というのは主なる神様のみこころを行なうことによって主の栄光を現わすところです。教会は一番に神のみこころは何かを考えているのです。そしてそのみこころに従って行きましょうというのが教会です。なぜならその時に神の栄光が現わされるからです。霊的なリーダーというのは神のみこころを見出して、そのみこころに従っている人たちなのです。なぜならそうしないと成長しないからだと何回も見て来ました。ですから霊的に成長しているというのは、その人たちが神のみことばに、みこころに従って生きていることの裏付けなのです。彼らが本当に霊的なのかどうかを見分けることができます。彼らがどういう人物かを見たらいいのです。どういうふうに生きているかを見たらいいのです。彼らがいろいろな問題に遭遇した時に、どんなふうにならそれがその中で正しく生きているかを見たらいいのです。聖書が私たちに教えるように聖霊なる神様は私たちを変えて行くと言いました。主によって救いに与った者たちを神様は変えて行くと言われた。私たちがイエス様に似た者に変えて行く。だからその人たちが主に似た者に変えられているかどうかに見たらいいのです。

よく私は生まれつき短気だから、クリスチャンになっても短気でいるのだと言う人がいます。神は変えるのです。短気だった人々を変えて行くのです。そういう働きを神様は信仰者のうちになしてくるのです。ですから私たちが見るのは、その人たちが本当に神様のみことばに沿って生きているかどうか。そしてその人たちがどういう人になっているのか、その方たちの性格であり、そういう人たちの行ないを見た時に、その人たちが霊的であるかどうかを判断できます。何を言うかとか、どれだけの知識を持っているかではないのです。どんなふうに生きているかです。問題がある時にどんなふうになら神様のみことばに沿って対処しているかです。そういったことがその人の霊性を明らかにするのです。ですから、なぜ神様は霊的なリーダーを任命しなさいと言ったかということ、この人たちは神のみこころを求め、そのみこころに従っている人たちだからです。そういう人たちだから神は彼らを通して神のみこころを明らかにされるのです。霊的なリーダーは自分の特権や自分の利得を考えて歩んでいません。霊的なリーダーというのは神様の栄光をどうやって現わすかしか考えていない。神がお喜びになることは何かしか考えていない。そういう人たちに教会を託しなさい。なぜならその人たちはそういう生き方をしている人たちです。神のみこころに従っている人たちです。そしてそれによって変えられている人々です。彼らにリーダーシップを委ねて、もちろんそういうリーダーになるために教会員すべての皆さんが成長を願って歩んで行くことが必要です。でもそういう人たちにリーダーシップを任せて、それ以外の人たちは彼らをやまい、彼らのリーダーシップに従って行こうとするのです。そこに一致があるのです。それが聖書が教えていることだからです。

私たちはこの聖書の教えに基づいて歩んで行こうとする。そしてそこに神様のみわざがなされるのです。だから私たちは「同じ心、同じ判断」を持って歩んで行くことができる者に生まれ変わったのです。我々はしっかりと神様のおことばに立って歩んで行くことが必要なのです。ここにおられる信仰者の皆さんはパウロと同じように「私にとっては、生きることはキリスト、死ぬこともまた益です。」、そのことを心から主に対して叫ぶことができるはずで、それなら間違いなく私たちの間には争いではなくて一致が生まれて来るのです。パウロはそのことを望むのです。そして一致をもって教会が歩んで行くことこそが主の恵みに対してふさわしい感謝の表現方法であると。あなたが主のみことばにしっかりと立って主のみことばに従って、主のみことばに服従するならば、主はあなたを変えて行ってくださる。そしてそのような生き方こそが、神様、私はこんな祝福を下されたあなたのことを感謝していますという、その感謝にふさわしい生き方なのです。パウロは愛するコリントの人々がそんな歩みをしていなかったから嘆くのです。

② パウロの願い

最後に、「完全に保ってください。」というパウロの願いが記されています。この動詞は破れているものを繕うとか直すという意味です。新約聖書の中に13回出て来ます。マタイ4:21やマルコ1:19を見ると、「網を繕っている」ところに使われていることばです。また1テサロニケ3:10を見ると、「信仰の不足を補いたい」と言って、補うということばにも訳されています。このことばは、もとの正しい状態に回復するという意味で使われているのです。パウロはコリント教会が元の状態に戻ることを願ったのです。主を愛して、主のみことばに喜んで従って行ったあの時に戻るように彼は望んだのです。そのためにパウロは彼らの罪を示しました。みこころに反していることを明らかにしました。そして、正しく歩むように彼らに勧めるのです。主を愛して、主に喜んで従っていた、あの時に戻っていきなさいと、パウロは勧めるのです。

皆さんは主によって救われたことを感謝しておられますか？それはすばらしいことです。問題はそれをどんなふうに表しているかです。あなたの生き方は、主を感謝している者にふさわしいものですか？あなたの生き方はあなたの主である、このすばらしい神様の香りを人々に放つようなものですか？あなたの考えもそうだし、あなたの話すことばもそうだし、あなたの行ないもそうだし、それを見ているあなたの家族が、あなたの友人が、あなたを通して正しいイエス様を見えていますか？その責任がクリスチャンであるあなたにはあるのです。そして感謝なことに、それを実践するために聖霊なる神様は与えられたのです。それを実践するために神様は聖書を下さったのです。こうやって生きて行きなさいと。そしてそうやって生きて行くために私は助けを与えたと。そうやってキリストの香りを放つ者として生きて行ける、キリストのすばらしさを証する者として生きて行くことができるのです。まずそのためにあなたがみことばに沿って生きて行くことです。その歩みをあなたがするならば、あなたを通して一致が生まれて来ます。そしてその中に主は働きをなされるのです。どうぞこのすばらしいキリストの香りを放つ者として歩み続けてください。本当に救われたことを喜び、感謝している者として、そのことを主のみことばに従うという生き方をもって示し続けてください。そのことを神様はあなたに望んでおられる。そのことを神様はあなたに命じておられます。それに従いましょう。この方は私たちの主人であられるのです。

《考えましょう》

1. 主なる神はどうして教会が一致することを望んでおられるのでしょうか？
2. 教会の一致を妨げるものは何でしょう？
3. 教会が一致することは可能なのでしょうか？
4. 教会が一致するために、主があなたに求めておられることは何でしょう？

☆ 先週(10/20)の礼拝メッセージのレジメの訂正をお願いいたします。

① 9つの聖書の特徴

8. 「金よりも」 → 「好ましい」

② 9つの結果

6. 「好ましい」 → 「金よりも純金よりも」